

2025 年 6 月 8 日

「英霊の名誉を守り顕彰する会」 主催
(於・文京シビック・センター学習室)

国際政治経済学者 山下英次
「日本の真の独立を目指す有識者会議」(ECAJTI) 創業者・副議長
大阪市立大学名誉教授・経済学博士

日米戦争において数々の反則技によって勝利したアメリカ

：戦後日本に着せられた汚名を晴らすとき

はじめに

- ・われわれ「日本の真の独立を目指す有識者会議」(ECAJTI) は、歴史認識を巡り、NHK との論争を展開中。
 - ；戦後 GHQ による日本国民に対する洗脳工作に加担させられた事実を告白・懺悔し、なおかつ史実に基づいた特集番組を継続的に放送せよ！
 - ；2025-01-06、NHK 会長に対する公開書簡の発出、記者会見・・・回答期限＝4/ 28
 - 『産経デジタル』、『大紀元』、『世界日報』で詳しく報道
 - ；2025-04-28、NHK 会長からの回答 → 内容的には全く納得できないのもの
 - ；2025-05-30、NHK 会長への公開質問状の発出、記者会見
 - 『大紀元』、『世界日報』で詳しく報道
- ・多くの人々による「メディア批判の大合唱」につなげたい！
- ・ECAJTI のホームページと YouTube チャンネル
 - ；<https://ecajti.org/>・・・公式ホームページ
 - ；<https://www.youtube.com/@ecajti>・・・公式 YouTube チャンネル

日米戦争はいつ始まり、いつ終わったのか？

- ・日本は、終戦後何年かして戦争目的を達成した（＝アジアの植民地解放）ので、戦争には勝ったが、戦闘で米国に負けたと言われる。
 - ；確かにそう言えるが、戦闘で負けたのは、多分に米国による数々の反則技によって敗れたためである。
 - ；反則技を使わなければ、日本に勝てなかったアメリカ？
- ・日米戦争は、果たしていつから始まったのか？

- ；一番長いヴァージョン＝1853 年（ペリー来航）～
 - ペリー来航 ＝ 米国西漸政策の一環 or アメリカの帝国主義的膨張政策の始まり
- ；その次に長いヴァージョン＝1906 年（日露戦争終結直後）、米国の『オレンジ戦争計画』（the War Plan Orange）の始動～
 - －日露戦争で、陸戦と海戦の両方に勝利した日本に驚愕し強い警戒心を抱いた米国
 - 陸戦＝奉天会戦（当時世界最強の陸軍と言われたロシア陸軍に勝利）
 - 海戦＝日本海海戦（バルチック艦隊を壊滅させた）
 - －日露戦争の終結直後から、唯一の成功した有色人種の日本を叩きのめすことを決めていた米国
- ；日中戦争の開始（1937-07-07）～
- ；日米通商航海条約の米国による一方的破棄（1939-07-26）～
- ；米国による日本の在外資産凍結（1941-07-25）& 対日石油湯質の全面禁止（1941-08-01）～
- ；真珠湾攻撃（1941-12-08）＝直接的な熱戦の開始～
- ・日米戦争は、果たしていつ終わったのか？
 - ；1945-08-15、熱戦の終了 熱戦の期間＝3 年 8 カ月
 - ；1945-09-02、日本軍の降伏（於・戦艦「ミズーリ」における降伏文書の調印）
 - 国際的には、この日が、WW2 終結の日とされているが・・・
 - ；1952-04-28、本当の終戦＝心理戦終了 心理戦の期間＝6 年 9 カ月弱
 - ＝サンフランシスコ講和条約の発効（日本の主権回復）
 - ；7 年間近くに及ぶ心理戦で、GHQ は、あたかも日本人の頭の中に入り込んで思想の絨毯爆撃を行ったかのように徹底的に洗脳した。
 - －世界史上、おそらくこれほどまでに徹底的に言論統制を行い、一国の国民を洗脳することに成功した例は他にないのではないか？

日中戦争は、事実上すでに日米戦争

- ・1937-12-13、日本軍による南京陥落（日中戦争勃発からわずか 5 カ月後）
 - ；1937-11-20、国民政府が、南京から重慶へ遷都
 - ；ほぼ無制限に外部からの支援が入るために、国民政府は持ちこたえる
 - ；日中戦争が長引いた唯一の要因
 - ＝蒋介石に対する外部からの莫大な支援があったから
- ・日中戦争は、米英の対日代理戦争；日中戦争＝事実上「日本 vs. 米英」戦争
 - ；非対称の代理戦争 ∵ 国民政府軍＝代理、日本軍＝本人
 - ；日中戦争の期間、援蒋ルートを通じた物資の輸送が膨大な規模だった

- 1944-10-30、アルバート・ウェデマイヤー陸軍将軍*が、中国方面アメリカ軍司令官として、ヒマラヤ越えの「ビルマ・ルート」で重慶に赴任した際のエピソード
 - *=中佐の頃から、陸軍省戦争計画部のスタッフとして、WW2における米軍の中枢で活躍してきた人物で、スタンリー・エンビック中将の娘婿
- ニュデリー ～ インド北東部アッサム ～ ヒマラヤ越え（ハンプ越え）～ビルマ北部上空 ～ 昆明 ～ 重慶
- この時、昆明の飛行場は、NYのラガーディア空港よりも忙しいと聞かされた
 - 「ハンプ・ルート」を通じた蒋介石に対する支援物資が如何に膨大だったか
- ; ウクライナ戦争も、非対象の代理戦争と言えるかもしれない
 - ∴ ロシア = 本人、ウクライナ = 代理戦争
- ; 代理戦争は、背後にいる国にとっては自衛のための戦争とはいえない
 - 国際法違反
- ; 蒋介石軍の犠牲の下に日本軍を殲滅しようとする米英の極めて悪辣かつ卑怯な遣り口（=反則技）、伊藤七司『米国の対日謀略史〈復刻版〉』、経営科学出版、2023年11月、p. 368、原著発行=非凡閣、1944年10月、GHQ禁書

戦争責任は完全にアメリカ側にある

- ・この点を証明した最も重要な本
 - ; ハミルトン・フィッシュ『ルーズベルトの開戦責任：大統領が最も恐れた男の証言』、草思社文庫、2017年4月、原著発行=1976年
- ・1918年、第一次世界大戦終了後、ヨーロッパは、敗戦国だけでなく戦勝国も総て疲弊
 - 世界中で元気な主要国は、アメリカと日本の2カ国だけとなった
- ・しかも、日本は、人権人道面で極めて真っ当な主張を国際舞台で展開していた
 - ; 1919年、パリ講和会議の国際聯盟規約草案起草委員会で、人種差別の撤廃条項を盛り込むように主張
- ・しかし当時、日米の国力の差は非常に大きく、しかも、米国は「持てる国」、日本は「持たざる国」であり、米国は特に心配する必要もなかったはず
 - 貪欲で、なおかつ有色人種の成功者に強い敵愾心と嫉妬心を抱いた米国は、日本を叩きのめそうと決意
 - = 彼らの人種差別意識の強さと底意地の悪さに注目すべき！
- ・終戦直後、首相になった東久邇宮^{ひがしくにのみやなるひこ}稔彦王（1887～1990年）*の若い頃のパリにおける体験談（1920年半ばから7年間パリ滞在）、山下英次『日本よ、歴とした独立国にな

れ！』（ハート出版、2023 年、pp. 230-233）、東久邇宮『やんちゃ孤独：菊のカーテンの中の一人の人間記録』、読売新聞社、1955 年 6 月

；ジョルジュ・クレマンソー元首相、フィリップ・ペタン元帥、オテル・ドウ・ムーリスのレストラン支配人、シャンパーニュのポメリー社の社長夫人（米国人）など多くの人から、米国はいずれ必ず日本と戦争すると伝えられ驚く。

*=国際経験が豊富で骨太の人物。戦後、「日本弱体化計画」を打ち出した GHQ に抗議する意味から、1945-10-05 に内閣総辞職（僅か 1 カ月半の内閣）。

→ 骨のある東久邇宮の後は、骨のない幣原喜重郎が内閣が引き継ぐ

・日米開戦の時と場所

；1906 年～1940 年末の米国の対日戦争計画である「オレンジ戦争計画」でも、初めからずっと、どのヴァージョンでも、日米開戦の時と場所について、「太平洋のどこか日本軍が好む所で始まる」と、一貫して書かれている。

→ あくまでも、最初の一発は必ず日本側に撃たせ、戦争口実を作るという信念・姿勢

・「リメンバー・パールハーバー」とはもう言わせまい

；「リメンバー・パールハーバー」は、史実に基づいていない全く不適切な表現

；実は、「リメンバー・ザ・メイン」（"Remember the Maine"）から来ている。

－1898 年の米西戦争のきっかけとなった「米軍艦メイン号爆発事件」の時以来の警句

・・・おそらく、この警句も史実に反するもの（＝真珠湾と同じく戦争口実作り？）

；しかもその間違った表現を、米国は、繰り返し警句として使用してきた

極端な例＝2001 年の 9/11 同時多発テロ

→ 2003 年 3 月のブッシュ Jr. 政権のイラク攻撃へつながった

➡ そのたびごとに、日本と日本人を著しく侮辱することになった

→ 日本人よ、憤れ！

；Don't Say "Remember Pearl Harbor", say "Remember the Hull Note". と言え！

・・・これが、史実を踏まえた適切な警句

；日米開戦回避に向けた日本政府の涙ぐましくかつ誠実な努力を踏みにじった FDR 政権

→ 開戦に至るまでの日米交渉の時系列を丹念に辿ると、まるで、

質の悪いギャング（FDR 政権）

vs. そう言った恐ろしい連中に睨まれた堅気の市民（日本政府）、のごとし

；真珠湾攻撃の責任は FDR にあるとする本は、私が知る限りでも、米国内で 10 数冊

出版されている。その中には、米軍将官の著書もある

ージョージ・C・ダイヤー『真珠湾へのトレッドミルに乗って：ジェイムズ・O・リチャードソン提督の回顧録』、1973年発行、おそらく邦訳未発行
ーロバート・A・シオボールド（米海軍少将『真珠湾の審判：真珠湾奇襲はアメリカの書いた筋書きだった』、大日本雄弁会講談社、1954年8月、翻訳＝中野五郎、原著発行＝1954年4月

- ・戦中の「鬼畜米英」、「鬼米」、「鬼畜米国」は、むしろ至言ではないのか？
 - ；1942-05-23 付け『朝日新聞』で「鬼畜米英」の表現
 - ；実は、「鬼畜米英」は余り使われておらず、むしろ「鬼米」の方が一般的だった

戦時中の日本の極端なモノ不足・食料不足は、アメリカによる長年の計画によるもの

- ・開戦当初から、アメリカは、「対日戦争を、・・・(中略)・・・日本を貧窮と病弊に追い込むことと定義していた」エドワード・ミラー『オレンジ計画：アメリカの対日侵攻 50 年計画』、経営科学出版、2024 年 8 月、p. 717、原著発行＝1991 年)
 - 何という底意地の悪さよ！

- ・1906 年以来の長年の『オレンジ戦争計画』で、アメリカは、日本を海上封鎖して、物資の輸送を遮断することを計画していた。
 - ；『オレンジ戦争計画』は、1940 年末で終了するが、それ以降も、米国の対日戦争計画は、基本的にはこの『オレンジ戦争計画』の考え方をベースにしていた。

- ・無差別な商船攻撃による日本の海上輸送の遮断
 - 戦時中、日本における極端な全般的モノ不足（特に食料）
 - ；「オレンジ戦争計画」以来の米国の長年に及ぶ対日戦争計画通り
 - ；「無差別な商船攻撃」は、文明社会のルールに背くものとして禁止されていたが、真珠湾後、FDR は、「日本船の発見即ただちに撃沈」の命令を出す
 - ；戦時中の日本が極端な食料不足に陥ったのは、長年にわたって計画された米国の意図的かつ非人道的な政策によるもの

FDR の前近代的かつ野蛮な「無条件降伏」要求が諸悪の根源

- ・FDR の前近代的で野蛮な「無条件降伏」要求
 - ；1943 年 1 月、カーサ・ブランカ会議（ルーズヴェルト & チャーチル）で、FDR が提案し、チャーチルも最終的には渋々了承
 - 両軍ともに、戦闘方法の長期化・激化・残虐化
 - ；「この当時、オレンジ・プランの計画者たちにとって無条件降伏とは聞き慣れない

言葉だった」(エドワード・ミラー『オレンジ計画：アメリカの対日侵攻 50 年計画』、経営科学出版、2024 年 8 月、p. 704)

；FDR がこの時点で、「無条件降伏」を打ち出した背景（一説）

－1942-12-02、エンリーコ・フェルミの原爆事件の成功

→ 米国が敵国に原爆を投下できる可能性が高まったために、投下後における人道面での国際的非難をかわす目的から、「無条件降伏」を唱え出した可能性あり

；FDR は、「無条件降伏」の定義をせずに、ぶち上げた

→ 日独は、最悪のケースをも想定した絶望的な戦いになった

・アメリカ人は、日本軍の特攻攻撃を、非人道的とか、野蛮だと称し、特攻攻撃によって受けた大きな被害のために、日本軍への憎しみを増幅させたと言われるが、それは、元をただせば、米国大統領の前近代のかつ野蛮な「無条件降伏」要求に端を発するものの

；1943-06-29、海軍大佐の城 英一郎大佐（昭和天皇侍従武官）、海軍中将の大西瀧治郎（航空本部総務部長）に対し、特攻攻撃を進言

→ 大西中将は、意見は了解したが、まだその時期に非ずと回答

；1944-10-25、日本海軍、フィリピン戦（レイテ島沖）で初めて米軍艦に対する神風特別攻撃隊（隊長＝関 行男 大尉）による攻撃を行う（マニラの北北西約 100 km のマバラカット基地から発進）

；そもそも、戦争のやり方は、両軍の戦力バランスによって決まる

両軍の力がほぼ均衡している場合 = 正規戦

力の差が大きい場合 = 弱い方は遊撃戦

さらに力の差がある場合 = 弱い方はゲリラ戦

圧倒的に差がある場合 = 弱い方はテロ

*アングロ・サクソンも、同じ立場に立たされ、国と民族の存亡の危機に陥ったら、同じような作戦を選ぶのではないだろうか？

・官民合わせた日本人の死者 310 万人のうち 9 割が 1944 年以降と言われる

残酷で無慈悲なアメリカの攻撃

・1944-09-18、ハイド・パーク協定（密約）

；ルーズヴェルトの故郷のニューヨーク州ハイド・パーク市で、ルーズヴェルト米大統領とチャーチル英国首相の間で締結された秘密協定で、原子爆弾が開発されたら、日本人に使用することを決める。

；また、すぐに降参しない場合には、繰り返し使用することも決める。

- ・ 1 度ならず、2 度にわたる原爆投下
 - ； 広島と長崎は、別の種類の原子爆弾 → 実験の疑いが濃厚
 - 1945-12-06、広島＝リトル・ボーイ（ウラニウム 235）
 - 1945-12-09、長崎＝ファット・マン（プルトニウム 239）
 - －投下後、アメリカの医師が被爆者の被害状況を定期的にモニター、治療に非ず
 - ； 言い逃れできないアメリカの大罪
 - ； 「唯一の原爆投下国アメリカ」 と呼ぶべき、
 - rather than 「唯一の戦争被爆国日本」
 - ∴ 行動したのは米国であって、日本ではない
 - 2 度と原子爆弾を使ってはならないとする人類に対する警句としてはこちらの方が遥かに有効ではなか？
- ・ 大中小、夥しい数の日本の都市に対する無差別空爆
 - ； 実際には、「無差別」ではなく、さらに悪い
 - ∴ 民間人に狙いを定めた “targeted bombing”
- ・ 沖縄戦などで、穴に逃げ込んだ日本兵を火炎放射器で焼き殺した米兵
- ・ 『わが軍の将兵は、日本軍の捕虜や投降者を射殺することしか念頭にない。日本人を動物以下に扱い、それらの行為が大方から大目に見られているのである。われわれは、文明のために戦っているのだと主張されている。ところが、南太平洋における戦争をこの眼で見れば見るほど、われわれは文明人を主張せねばならぬ理由がいよいよ無くなるように思う。事実、この点に関するわれわれの成績が日本人のそれより遥かに高という確信は持てないのだ。』 by チャールズ・リンドバーグ『リンドバーグ第二次大戦日記（下）』、（角川ソフィア文庫、2016 年 7 月、p. 241、原著発行＝1970 年）、1944-07-13 の日記
- ・ 1943 年 3 月初旬のビスマルク海海戦で、船が沈没し、海に漂流中の日本兵に対して米軍が機銃掃射および救助の放棄
- ・ 連合艦隊司令長官の山本五十六大将の暗殺（1943-04-18）
 - ； ソロモン諸島のブーゲンビル島の上空で米軍機に撃墜され死亡
 - ； ハーグ陸戦条約（1907 年署名）の精神に反するのではないか？
 - －条約附属書 第 23 条「禁止事項」の「ロ」
 - 「敵国または敵軍に属する者を背信の行為を以って殺傷すること」

- ・ 1943-11-27、病院船「ぶゑのすあいれす丸」の沈没 by 爆撃機 B-24 による空爆
 - 158～174 名が犠牲
 - ；日本政府は、3 度にわたってアメリカに抗議
 - ；米軍による病院船の攻撃はこれだけではない

- ・ 児童疎開船に対する攻撃
 - ； 1944-08-22、那覇から長崎に向かう「対馬丸」が、米潜水艦の魚雷攻撃によって沈没（奄美大島沖）
 - 少なくとも 1,483 名（うち児童 784 名）が犠牲

- ・ 1945-04-01、貨物船「阿波丸」事件
 - ；「阿波丸」は、日米間の協定で、安全航行を保証されていたが、シンガポールから日本へ向かう途次、米潜水艦の魚雷攻撃を受け沈没
 - 2,000 名以上の乗客乗員がほとんど死亡

- ・ 世界史全体を通じて、最も残虐な方法で戦争を戦ったのは、第二次世界大戦におけるアメリカであり（by 米国の著名な政治学者ウォルター・ラッセル＝ミード教授）、その最大の被害者は日本国民である。

戦時中における日本軍の美談

- ・ 戦時中、日本海軍 駆逐艦「雷」（いかづち）の艦長・工藤俊作少佐の美談
 - ； 1942-03-02、前日のスラバヤ海戦で日本軍に撃沈された英艦の敵兵 422 名を救助・・・「おい、助けてやれよ」の一言
 - ； 3 時間に及ぶ救助作業の後、「雷」に引き上げられた英兵を前に演説し、「諸君は非常に勇敢に戦った。日本海軍の名誉ある賓客である」と述べる。
 - ； 翌日、日本軍が接収して港に停泊中のオランダの病院船に英兵を引き渡す

戦後の GHQ による WGIP を中心とした心理戦全般

- ・ 7 つの柱によって、日本列島全体を「巨大な洗脳の檻」と化した GHQ
- ① 徹底した検閲を伴った言論統制：5 つの国際条約等に明確に違反
 - ； ポツダム宣言の第 10 項「言論、宗教及び思想の自由」
 - ； 日本国憲法第 21 条「言論の自由」
 - ； 「降伏後における米国の初期対日方針」（1945-09-22）
 - ； 1791 年の合衆国憲法修正第 1 条「宗教、言論、出版および集会の自由」
 - ； 1941-01-06、FDR が「一般教師演説」で行った言論の自由を含む 4 つの自由
- ② GHQ が押し付けた憲法
- ③ 公職追放

- ④ GHQ 版の焚書・坑儒
- ⑤ 日本の伝統的な歴史・道德教育の全面的禁止
- ⑥ WGIP (War Guilt Information Program)
- ⑦ 壮大稀有な歴史認識の大転換 (パラダイム・シフト)

第二次世界大戦における最も重要な本質は FDR が戦うべき相手を取り違えたこと！

- ・「20 世紀最大の愚行」by 山下『日本よ、歴とした独立国になれ！』（2023 年）の第 4 章
- ・以下の回想録でも明らか
 - ；ウィンストン・チャーチル『第二次大戦回顧録 第一巻』、毎日新聞社、1949 年 5 月、原著発行＝1948 年
 - ；チャールズ・ウィロビー『知られざる日本占領：ウィロビー回顧録』、番町書房、1973 年 8 月
 - ；チャールズ・リンドバーグ『リンドバーグ第二次大戦日記（上）（下）』、角川ソフィア文庫、2016 年 7 月、原著発行＝1970 年
- ・日独を含む資本主義国全体に対する裏切り
- ・ソ連を勝者としたために、戦後、社会主義国が大幅に増殖
 - ；第二次世界大戦前＝2 カ国（ソ連とモンゴル人民共和国）のみ
 - ；戦後の最盛期＝41 カ国
 - 自由主義陣営にとっては大惨事！

背景にある啓典宗教の問題点

- ・啓典（正典）＝神や神的存在からの啓示を記した最高経典
 - ；絶対もしくはほとんど絶対的なもの
 - ；キリスト教の『福音書』（『新約聖書』の中のマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの 4 つの福音書）
 - ；ユダヤ教の『トーラー』（『旧約聖書』の中のモーセ 5 書*）
- *＝ 「創世記」、「出エジプト記」、「レビ記」、「民数記^{みんすう}」、「申命記^{しんめい}」
- ；イスラーム教の『クルアーン』
- ・啓典宗教（Revealed Religion）
 - ＝ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教の 3 つのみ
 - ＝起源を一にするこれらの宗教に限定したもの
- ・以上の 3 つ以外は、すべて非啓典宗教
 - ；仏教、儒教、ヒンドゥー教、道教、ゾロアスター教、マニ教、神道
- ・絶対的な最高経典である啓典（Canon）があると、どうしても排他的・攻撃的な宗教

になる。

；多くの日本人にとっては、かなり違和感を抱く啓典宗教

- ・小室直樹『日本人のための宗教原論〈新装版〉』、徳増書店、2021年10月、初版＝2000年6月

- ・キリスト教徒による大虐殺の歴史

；中世、十字軍によるイスラーム教徒の大虐殺

－当時、豊かであった東方世界から見れば、十字軍は、「蛮族の侵入」以外の何物でもない

－2000-03-12、ヨハネ・パウロ2世（ポーランド出身の79歳）が、バチカンのミサで謝罪・・・過去2000年間にキリスト教会が犯した罪を認めた一環として

；大航海時代、キリスト教徒による世界各地における先住民の大虐殺

；北アメリカに於ける先住民の大虐殺（3世紀かけてほぼ絶滅させる）

；WW2、アメリカによる日本人に対する2度にわたる原爆投下、等々

；「キリスト教徒＝文明人」ということで、異教徒を人間扱いしてこなかったキリスト教徒。しかし、「キリスト教徒＝文明人」は笑止千万。

∴ ヨーロッパの中世は、人々はキリスト教に支配されていたが、文明人に非ず。ヨーロッパで最初の文明人は、ルネッサンス期のイタリア人。

- ・いま起こっているユダヤ教徒によるパレスティナー人の大虐殺 & ガザを封鎖し、食料を含む物資の搬入を阻止

・・・パレスティナーのガザにおいて現在進行中

；ユダヤ教の「ヨシュア記」（トーラーを構成するモーセ5書の外）

・・・「異民族は皆殺しにせよ」

*ヨシュア＝預言者モーセの後継者

；ユダヤ教の神ヤハウエは、「嫉妬と妬みと怨念と復讐の神」

- ・日本人は、心の中では神道だけしか信じないというほどのメンタリティを無意識のうちに内包している。」（小室・前掲書、p. 378）

；日本人は、唯一絶対のものを信じるようなメンタリティでなくて良かった

戦後日本の絶対平和主義とは何であろうか？

- ・WW2に関して、日本が悪くなかったとすれば、日本人は、一体、何を反省すべきなのか？

；2025-02-08、日本国史学会における山下の講演

「戦後日本人の絶対的平和主義の起源：果たして歴史の真実を踏まえたものなのか？」

- 平和を願う心は貴いが、戦後、日本人の絶対平和主義は、史実に基づいたものではない。
- GHQ が日本列島全体を「巨大な洗脳の檻」とした上で、日本人の頭の中に思想の絨毯爆撃を行って、植え付けた自虐史観をベースとしたもの
- 「小日本主義」*に徹すればよかったのか？
 - 否、それでは、日本は植民化されていたかもしれない
 - ∴ 日本は、幕末以来、被植民地化の危機に晒され、明治維新以来、国の独立を守るために、必死で富国強兵してきた。おそらくそれ以外の選択はなかった。
- *= 小日本主義とは、『東洋経済新報』誌の編集幹部の間で、三浦錠太郎（主幹）から石橋湛山（主幹）、さらには高橋亀吉（編集長）へと連綿と受け継がれた 1910 年代から 1930 年代にかけての思想で、すべての海外領土の放棄を含むもの。古くは、内村鑑三（1861～1930 年、享年 69）、さらには明治期に日清戦争に反対した中江兆民（1847～1901 年、享年 54）の思想にもつながる（『三酔人経綸問答』[1965 (1887)]）。

米国が日本にしたことの総括

・戦時中

- ① 日本列島を海上封鎖することによって物資の搬入を阻止し、日本を窮乏化させ、「飢餓列島」と化した
- ② 火力による日本の夥しい数の都市に対する絨毯爆撃（熱戦）

・戦後

- ① 日本列島全体を「洗脳の檻」と化した
- ② 人々の頭の中に入り込んで思想の絨毯爆撃（心理戦）

おわりに—日本人は怨念（ルサンチマン）を持ってはいけない！

- ・「日本人は、これまで、歴史的にアメリカに相当ひどい目に遭わされてきた。
 - 深く正しく憤れ！
 - また、口を極めて米国を非難してよい
- ・他方、日本は、世界史全体を通じて、人権人道上最も偉大な業績を上げた
 - ；日本の長年にわたる人種別撤廃努力が実を結び、第二次世界大戦後、世界各地で、100 以上の国々で、民族自決と国の独立を果たした。
- ・戦後、着せられてきた「アメリカ＝善/ 日本＝悪」という汚名を雪ぐべく、アメリカ

を堂々と、口を極めて非難すべき。

- ・しかし、怨念（ルサンチマン）を抱き続けて復讐するなどいう考えは、決して持つてはならない。

∴ 怨念を抱き続ける者を待つ将来は、ただ戦いあるのみ